

本校の概要

今回の調査における成果と課題

改善の方向

【知識及び技能】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

- ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「情報の扱い方に関する事項」

- ◇全国平均を下回っている。

【思考力、判断力、表現力等】

「話すこと・聞くこと」

- ◇全国平均を下回っている。

「書くこと」

- ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「読むこと」

- ◇全国平均を下回っている。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

- 比喩などの表現の工夫に気付くことができる。
- 文章の種類や特徴を理解することに課題がある。

「情報の扱い方に関する事項」

- 自分の考えと、それを支える理由や事例など、情報と情報との関係を論理的に理解することに課題がある。

「話すこと・聞くこと」

- 動画などの資料を活用する際、「自分の考えがより伝わるように」という意図に応じた表現の工夫を捉えることに課題がある。

「書くこと」

- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成について考えることがある程度できている。

「読むこと」

- 文章を読んで理解したことに基づき、既有的知識や自分の経験と結び付けて自分の考えを形成・記述することに課題がある。

- ・単元の最初に文章の全体像を捉える活動を取り入れていく。

- ・引用の目的を明確にし、引用した部分と自分の考えとの関係が分かるように整理して書く学習活動を充実させる。

- ・対面や動画ならではのよさを理解し、目的や状況に応じて資料を効果的に活用する構成を考える活動を取り入れる。

- ・文章を繰り返し読んだり、友達と話し合ったりする中で、読んだ内容を自分の経験と関連付けて整理し、自分の考えを再構成して表現する活動を充実させる。

【算 数】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本 校 の 概 要

【領域】

「数と計算」

◇全国平均を下回っている。

「図形」

◇全国平均を下回っている。

「測定」

◇全国平均を下回っている。

「変化と関係」

◇全国平均を下回っている。

「データの活用」

◇全国平均を下回っている。

今回の調査における成果と課題

「数と計算」

- 分数の通分や小数への変換、帯分数化などの方法を適切に選択するところに課題がある。
- 分数の大きさを数直線上の目盛りで捉えることができている。

「図形」

- 立方体の体積を求める際に、正方形の面積の公式を適用したり、面の数をかけたりするなど求積の理解に課題がある。

「測定」

- 情報を基に数量の関係に着目して条件に見合う時間を求めることに課題がある。

「変化と関係」

- 基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えて、立式することに課題がある。

「データの活用」

- 二つの表を比較して誤りを見付けることに課題がある。
- 帯グラフを見ておよその割合を読み取ることに課題がある。

改 善 の 方 向

・数を構成する単位に着目させ、多様な比較方法（通分、小数に変換）を用いて、判断の理由を数や言葉で表現する学習活動を取り入れる。

・図形を構成する要素（縦、横、高さ）に着目させ、単位となる立方体の個数と乗法を関連付ける活動を充実させる。

・問題場面をテープ図や数直線などに表すことで数量関係を可視化し、基準量の求め方を考察・立式する活動を充実させる。

・資料の落ちや重なりを確かめる習慣を付けさせる。
・帯グラフの特徴を理解し、目盛りに着目してデータの特徴や傾向を捉え、判断の理由を表現する活動を取り入れていく。

〔○：全国の割合と比べてよいところ ●：全国の割合と比べて課題があるところ〕

学習状況調査結果

学校や家庭での「学習」や「生活」の様子について

生活面の質問事項から

- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う子の割合が高い。
- 困りごとや不安があるときに先生や大人に相談できる子の割合が高い。
- 1日に3時間以上スマホやパソコン、テレビなどでSNSや動画視聴をする子の割合が高い。
- 毎日、同じ時刻に寝ている子の割合が低い。

学習面の質問事項から

- インターネットで情報収集をしたり、タブレットで発表のスライドを作ったりすることができる子の割合が高い。
- 国語の勉強が好きな子の割合が高い。
- 学校の授業時間以外に、土日などの学校が休みの日を含めて、全く勉強をしない子の割合が高い。
- 算数の勉強が嫌いだったり、苦手だったりする子の割合が高い。

〔○：全国の割合や昨年度と比べてよいところ ●：全国の割合や昨年度と比べて課題があるところ〕

本調査は、子どもの学習・生活状況についてのアンケート結果を表したものです。全国の割合や本校の昨年度までの割合と比べて、本校児童の実態を表している特徴的な結果のみを掲載しています。

生活面では、地域や社会をよくしたいと思う子の割合が高く、縦割り活動での異学年交流や委員会活動で学校のために行う活動に価値を感じていることが一因だと考えられます。また、困りや不安があるときに先生や大人に相談できる子の割合が高く、学校や家庭で困ったときに相談する大切さを伝え続けている成果だと考えられます。一方で、長時間のSNSや動画視聴をする子の割合が高いです。これは、ここ数年の本校の傾向です。学校でも長時間のSNSや動画視聴による心身への影響を伝えるとともに、SNSでのトラブルを防ぐための情報モラル教育の一層の充実を図ります。また、毎日同じ時刻に寝る子の割合が低く、望ましい生活習慣の確立に課題も見られます。子どもの心身の健康のためにも、ご家庭でもスマホやテレビの視聴時間のルール作りや子どもだけのライングループの禁止などのルールの確認、「早寝・早起き・朝ご飯」といった生活習慣作りへの声掛けなど、ご協力をお願いいたします。

学習面では、インターネットでの検索や発表スライドの作成ができる子の割合が高く、日常的にICTを活用してきた成果が出ています。また、国語を好きな子の割合が高く、学習の意義を感じている一方で、算数は嫌いで苦手になっている子の割合が高く、教科に偏りが出ています。他には、学校以外では全く勉強しない子の割合が高く、自分から学習に取り組めていない傾向にあります。学校では、少しずつでも子どもが「できた」と思えるが授業づくりや意欲的に家庭学習(チャレンジスタディ)に取り組めるような工夫を推進していきます。ご家庭でも学習への声掛けや励ましをお願いいたします。

今後も本調査の把握・分析を図り、学力向上に対するよりよい取組や学習状況の継続・改善につなげていきます。